

事務事業評価シート

評価実施年度：平成28年度

上位の施策名称 施策Ⅱ-1-2
消防防災対策の推進

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長

消防総務課長 荒木 正秀

電話番号

0852-22-5886

事務事業の名称	消防職員・消防団員活動強化事業	
目的	(1) 対象	消防職員・消防団員
	(2) 意図	消防活動における消防職員、消防団員の士気の高揚、技術の向上を図る。
事業概要	1 消防職員・消防団員の士気の高揚、技術の向上を図り消防活動を充実強化する 1) 消防大会・消防操法大会の開催 2) 中国四国ブロック緊急消防援助隊合同訓練への参加 3) 消防学校・消防大学校における教育訓練 2 消防団の装備の整備や活動の活性化、消防団員の確保を図り消防団活動を充実する 3 自主防災組織を通じ地域ぐるみの防災防火体制の充実を図る	

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	消防学校の教育訓練研修の理解度	目標値	97.0	97.0	97.0	97.0	%
	式・定義	消防学校における各種教育訓練や研修において参加者がその内容をどれだけ理解できたか	取組目標値					
			実績値	96.0				達成率
2	指標名	消防団協力事業所数	目標値	240.0	240.0	240.0	250.0	件
	式・定義	消防団協力事業所数を増やし、地域における消防・防災体制の充実強化を図る	取組目標値					
			実績値	209.0				達成率

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費 (b) (千円)	59,354	69,385
うち一般財源 (千円)	58,534	68,362

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

- 消防団員数は、減少傾向である。（H27は市町村条例定数の91.5%）
H25 12,527人 H26 12,409人 H27 12,222人
- 消防団協力事業所表示制度の運用状況は、以下のとおり。
導入している市町村数 H25 11 H26 12 H27 16
表示証交付事業所数 H25 209 H26 216 H27 209
- H27新規事業のしまね消防団応援の店の登録状況は次のとおり。 H27末時点 155

6. 成果があったこと（改善されたこと）

表示証交付事業所数については全体として増加している。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

- 消防団員が不足している。
- 消防団協力事業所表示制度を導入していない市町村がある。（3市町村）
- 導入した市町村でも、表示証交付事業所数が伸び悩んでいる。
- しまね消防団応援の店登録の取組を新たに始めたところで、登録数が少ない。

②困っている状況が発生している「原因」

- 団員の減少要因として、現在の団員が高齢化する一方で、若年層の減少、農村・中山間地域の人口減少、就業者に占める被雇用者割合の増加などがあり、入団者の確保が困難であるため。
- 消防団協力事業所表示制度を導入していない市町村については、周知が徹底していないため十分な理解が得られていないため。
- 町村部の小規模事業所にとっては、消防団協力事業所の認定により得られるメリットが小さいため。
- しまね消防団応援の店についての周知期間が短かったため。

③原因を解消するための「課題」

- 消防団に参加する住民の範囲を広げていく必要がある。（例えば女性、学生など）
- 消防団協力事業所表示制度を未導入の市町村については、制度に関する理解を得るための対策が必要である。
- 消防団協力事業所のイメージアップを図る必要がある。
- しまね消防団応援の店の周知を図る必要がある。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- 消防団員の確保のため、消火活動に取り組む専門的な組織といった従来のイメージに限定せず、消防団として様々な役割を持ち多様な人材を必要としていることを住民にPRする。
- 消防団協力事業所表示制度を導入していない市町村について、制度に関する理解を得るための働きかけを継続して行う。
- 消防団に入団しやすく活動しやすい環境づくりのため、市町村・消防関係機関とともに消防団活動の状況や消防団協力事業所表示制度及びしまね消防団応援の店の効果的なPRを行う。

課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）